

基本目標	番号	委員会	小戦略名	【評価の視点】 ①具体的な取組は良かったか (成果が評価できるか) ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか
基本目標 2 飯田市への人の流れをつくる	2-①	○産建・総務	飯田だから実現できるライフスタイルの提案	<p>【評価できること】</p> <ul style="list-style-type: none"> *移住定住のための様々な取組をしている。(後藤) ・移住相談会への参加や、就農相談会・現地訪問会を実施した点。(木下容) ・移住相談会、就農相談会、移住に向けた教育の充実など取組は評価できる。(木下徳) ・南信州・担い手就農プロデュースとの協働により、就農相談会や現地訪問会を実施し、5人の農業研修生が定着したことは評価できる。(福澤克) ・新しい試みとしての「宇宙留学サマーキャンプ」の実施。(木下容) ・「信州やまほいく」の認定(小林) <p>*移住後のトータルコストを比較してPR強化につなげる取組を今後の方向性として模索されている点。(塚平)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「移住後のトータルコストの比較」に視点を当てたことは評価できる。収支差額を比較して飯田市の方が優位もしくは同等だと判断できれば一つの強みを持つことができる。(竹村) ・「生活コスト」を比較材料にPRするのは新しい視点で有り、当を得ている。(岡田) ・地域の魅力の情報発信と共に各地区の取組みや受入体制の構築。移住後のトータルコストを比較したPRの強化(木下克) <p>*各主管と主な関係課の連携が取れている等(湊)</p> <p>*都内のシェアオフィス等におけるネットワーク拡大への取組。(塚平)</p> <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> *目新しさがない点が無いので、<u>ならではの工夫が必要</u>。(原) ・具体的な魅力づくり(定住したくなる魅力とは何なの、移住者が求めている魅力を具体的に表現(木下克) ・定住支援課が考える、飯田だから実現できることはどこでも実現できそうなことのように思われる。(後藤) <p>*できれば福祉課(福祉の充実)も入れて、より一層の連携ができればよいと思う(湊)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住希望者に対する南信州地域全体の広域的連携の仕組みが不十分。(湯澤) <p>*県内市町村の中でも、特に飯田市よりも移住者の多い市町村が何をしているのか分析たうえて、他市町村との差別化を図る必要がある。(竹村)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「コスト」(費用)を前面に謳うのに違和感がある。メリットと合わせ、前向きなイメージで飯田に有利な比較PRとされたい。(岡田) <p>【新たな視点で追加すべき取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> *移住者定住者の受け入れ体制として・・・移住者の当市でのより快適な生活の実現や、地域の力になってもらうために益田市のような暮らしサポーター制度の創設(村松) ・日常の生活が移住者にとって心地よいものになるような施策を考えたらどうか(後藤) ・南信州広域連合との連携による「農」を柱とした取組。(井坪) ・文化やスポーツの環境整備なども合わせ若者のライフスタイルに訴える視点(原) ・移住に関わる希望事項も多様化する中、就労の場の選択肢を増やすことと共に、今ある事業所等の給与増額に民間自事業所と協働して進めるべきと考える。・テレワーク型働き方は飯田に住みながら他地区の事業所の仕事をする2地域居住を目指すものと思うが、飯田出身者の帰飯のツールとしてはどうか。(木下徳) ・移住することのメリットを拡大(生活コストも1つである)ピーアル(湊) <p>*移住の際のトータルコストを優位性として表し、民間業者等多様な主体との連携で発信を強化していく。(塚平)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結いターンキャリアデザイン室で市町村合同の会議、又積極的に全国の会合にも出席してもらいたい。(会議に参加数を増大させること)(湊) ・首都圏の県人会や飯田市と関係のあるネットワークを活用した情報発信。(湯澤) ・交流人口を増大させること。そのためのイベントメニューの拡大を図る(湊) <p>*ターゲットを明確にした取組が必要と考える。特に、<u>若い女性をターゲット</u>にした取組を検討されたい。(熊谷)</p>

基本目標	番号	委員会	小戦略名	29年度 小戦略の評価	小戦略 資料No.1-2
基本目標 2 飯田市への人の 流れをつくる	2-②	○ 産建・総務	【再掲】ふるさとパワーアップ! 20地区の個性を輝かせる(20地区「田舎へ還ろう戦略」支援事業)	<p>【評価の視点】</p> <p>①具体的な取組は良かったか (成果が評価できるか) ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか</p> <p>【評価できること】</p> <p>*交流人口や関係人口拡大に向けた具体的な取組が始まっている地区が出てきている点。(塚平) ・20地区の個性を輝かせる取組(湊) ・取組開始が早い地域ほど移動者が増加している傾向にある → こういう要因分析ができていることを評価。職員チームの意識醸成や能力形成を図りながら…全職員の意識醸成は不可欠、外部支援体制に期待。(木下克)</p> <p>*<u>地区指定ふるさと納税制度</u>が総務省のふるさと納税活用事例集に特徴的事例として掲載された件。(塚平) ・地区指定のふるさと納税の取組は概ね評価できる。(熊谷) ・20地区応援隊制度の創設(小林) *飯伊不動産組合との協定での<u>空き家バンクの取組み</u>は、一定の成果を上げている。(木下容)</p> <p>【改善・修正が必要な点】</p> <p>*「<u>田舎へ帰ろう戦略</u>」の各地区への周知徹底と取組みの強化(村松) ・資金的な面での行き詰まりが考えられるので、メニューの充実と総合的な支援への取組み(原) ・20地区応援隊の取組みをふるさと会へ出てこない現役世代(特に40代・50代)との接点の創出およびPRが必要ではないか。(竹村)</p> <p>*<u>地域おこし協力隊員の増員及び集落支援員の導入</u>(湊)</p> <p>*「<u>地区指定のふるさと納税</u>」は募集期間は短かったものの、目標には程遠い金額となっている。理念は素晴らしいが、優良事例とされるには実績が伴わなければならない。目標未達成の原因を追究し、改善が必要。(木下容) ・地区指定ふるさと納税制度の寄付実績において、当初予算目標金額を著しく下回る結果となっている。寄付金のみが成果ではないという事であるが、目標に対しての結果という事について、しっかりと総括と分析を打ち出すべきである。(塚平) ・地区指定ふるさと納税制度について、「返礼品は地域の絆」は理解されにくい部分があり、お礼状と共に各地域産の物品等を添える等の対応をするべきかどうかを、各地区の裁量で任せるのがいいのではないか。(塚平) ・地区指定のふるさと納税は、額はともかく件数が極めて少ない。(熊谷) ・ふるさと納税の297,000円が成果で特徴的な事例になるのか疑問。見直した方が良いと思う。(後藤)</p> <p>【新たな視点で追加すべき取組】</p> <p>*移住定住促進の受入体制の徹底したアピールし飯田独自の対策、<u>他市町村との差別化</u>を図る(湊)</p> <p>*20地区の考え方のレベル差を把握した上で支援しないと取組みに差が生じる(木下克) ・20地区の取組む「<u>田舎へ還ろう戦略</u>」の詳細を「見える化」する。当面は自治振興センターがリードし先進事例を学ぶ研修機会を設けるなど、各地区の取組を活性化させる。必要に応じ、<u>専門性をもった人材派遣</u>を行い支援する。(湯澤) ・「取り巻く状況の変化」のなかで、都市部住民の農山漁村地域への移住希望は3割を超え、この傾向は若年層に顕著であること、都市部からの移住者が増加している。とあるが、方向性として、何故そうなっているのか、移住希望者の動向や何を求めているのかなどを調査されたい。(熊谷)</p> <p>*飯田市への人の流れを作るには、「<u>地域おこし協力隊</u>」の力が大きい。飯田市(特定地域)を真に愛する人材を発掘し、その活動をしっかりサポートすることで、<u>地域おこしにつなげたい</u>。(木下容) ・各地区の個性が活かせるように、益田市真砂地区大庭さんや津和野町糸賀さん方のような取組みができるよう支援する。(村松)</p> <p>*<u>田舎へ帰ろう戦略</u>をよく理解し、<u>当時地域のサポートが出来る人材の配置</u>。(原) ・やはり20地区に「区」単位まで支援できる職員を配置すべき(後藤) ・「<u>集落支援員</u>」を住民自治が危険になっているところに配置をすべき(後藤)</p> <p>*<u>地区指定ふるさと納税の増額</u>に向け、何が必要かを検討されたい。(熊谷) ・地区指定ふるさと納税への納税者は地区のサポーター的存在である、という位置づけがされる制度を検討。(塚平) ・20地区へ配分しているパワーアップ交付金の見直しを(湊)</p> <p>*<u>空き家バンクの活用</u>で新しい取組みを構築されたい(湊) ・移住定住について、<u>空き家活用</u>において、農地付き空き家が有れば、就農希望者へ優先的に情報発信するシステムの構築(小林)</p>	

基本目標	番号	委員会	小戦略名	【評価の視点】 ①具体的な取組は良かったか (成果が評価できるか) ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか
基本目標 2 飯田市への人の 流れをつくる	2-③	○産建・総務	「結いのまち」 飯田においてな んしょ	<p>【評価できること】</p> <ul style="list-style-type: none"> *「新たな地域の魅力発信を進めた」について、今ある地域の価値を再発見するアプローチも含むとの考え方は当を得ている。(岡田) ・飯田古墳群探訪ツアー等の地域資源を活かしたツアーの催行。(塚平) * (株)南信州観光公社の機能強化の中で特に南信州版DMOの実現を目指す取組み(湊) ・地域振興室(DMO設立準備室)が設立された。(塚平) ・旅行形態が団体旅行から個人旅行へと変化しており・・・と現状を把握したうえで計画立案されており、これが大事(木下克) *「ご湯つくり」のリニューアルオープン(小林) ・天龍峡温泉交流館「ご湯つくり」のリニューアルオープンに伴って、地域を挙げての各種イベントの実施で天龍峡を訪れた方が増加した点。(木下容) ・天龍峡温泉交流館「ご湯つくり」がリニューアルオープンし、43,000人を超える来館者があったことは、天龍峡再生や地域活性化の一つの拠点として評価できる。(福澤克) *地域における観光の担い手として、遠山郷の若者の活移動を支援し地区内外の若者のネットワーク拡大を図ったことは評価できる。(竹村) <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外ビジネスを積極的に受け入れる(湊) <p>【新たな視点で追加すべき取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> *登録までに地域分析の視点で、観光公社が行う日本版DMIの取組みを明確にしていく。(原) ・「おんな城主直虎」の例でも分かるように、テレビや映画のロケ地を「聖地巡礼」する現象を地域おこしに活用すべき。昨年度「いつくしみふかき」が、遠山でロケされたが、今後は市として、映画撮影の誘致や撮影支援に、積極的に関わったかどうか。(木下容) *インバウンド受入と観光プログラムの作成(湊) ・天龍峡、遠山郷エリアの観光については、観光客を滞留させるための宿泊モデルの視点(旅館組合や農家民泊との連携など)も大切。(福澤克) *「新しい地域振興のカタチ」として、飯田の「知」の財産を活かしたツアー(研究会、シンポ)の開発、販売を推進されたい。(井坪) ・おそらく10箇所くらいあると思う、飯田市にある温泉情報を発信する。温泉巡りするようなツアーなど考えたら。大手の観光会社を活用すべき(後藤) ・見てほしい拠点のPR。例えば 天龍峡→大橋からの景色、遠山郷→下栗、まちなか→りんご並木を中心としたまち巡り等(木下克) ・やまびこマーチや中央道沿線スポーツの交流大会などに多くの来訪者がある。主管課/主な関係課のなかに、生涯学習スポーツ課を含め、スポーツ交流と観光とを結びつけた取組を検討されたい。(熊谷) ・観光に対する健康志向メニューの作成(湊) ・県の整備した、猿庫の泉から妙琴高原、北方をとおり富士見台高原までを結ぶ「信濃路自然歩道」の再整備を検討されたい。(熊谷) ・一例としてSNS上では、田んぼのあぜ道にカエルがいる光景に感動する外国人観光客が多くなっている(全国傾向として)。こうした動向を把握し、飯田市にマッチする要素は市民に還元発信する取組みも必要ではないか。(岡田) ・ゲストハウス、シェアハウスの取組み拡大(湊)

基本目標	番号	委員会	小戦略名	【評価の視点】 ①具体的な取組は良かったか (成果が評価できるか) ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか
基本目標 2 飯田市への人の流れをつくる	2-④	○産建・総務	地域ブランドの構築と飯田の魅力が伝わるプロモーション	<p>【評価できること】</p> <ul style="list-style-type: none"> 飯田市は「学びの場・飯田」の価値を高めている。(湊) *農家民泊の取組。(熊谷) <ul style="list-style-type: none"> 海外ビジネススクールの受け入れが実現し、<u>COOL JAPAN AWARD</u> 2017を受賞したことは、海外からの誘客に向けて弾みとなる。(木下容) 農家民泊がCOOL JAPAN AWARD2017を受賞された。(塚平) *AVIAMA総会や世界人形フェスを有効に発信することで、さらに世界に向けての足掛かりにしたい。(木下容) <ul style="list-style-type: none"> 南信州・飯田フィールドスタディの中へ高校生も参加するようになったことは、新たな一步を踏み出したものとする。(竹村) IIDAブランディングセッション等、都内での取組みにより発信力の高い人材との関係性を深める取組みがされた点。(塚平) 自然・歴史・文化を背景とした既存の資源を磨き、地域の魅力が広く発信～その通りだが具体策に欠ける(木下克) <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 飯田の農家民泊が COOL JAPAN AWARD2017 を受賞し、飯田の知名度が向上した点について、<u>市民全体でこの情報を共有し、それぞれの立場で発信できるようにする。</u>(村松) ゲストハウスなどの拠点づくりが進んでいることは良いことだが、地域との繋がりも大事であるのでこの点を考えるべきである。(村松) 「今後を見据えた課題」のなかで、「飯田を訪れる方の評価や意見を踏まえ、飯田の文化資源、多様な……取組を強化する必要があります。」とあるが、<u>どのようにして評価や意見を集約していくのか？</u>具体的な方向性が示されていない。(熊谷) <p>【新たな視点で追加すべき取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> プロモーションにおいて映像を使った視覚的なアプローチ手法について研究を深められたい。(塚平) ブランディング、プロモーションの進め方についてサウンディング調査の手法を検討されたい。(岡田) 「新しい地域振興のカタチ」として、<u>飯田の「知」の財産を活かしたツアー</u>(研究会、シンポ)の開発、販売を推進されたい。(井坪) 飯田フィールドスタディでの取組みが、参加する大学や学生だけに終始することなく、<u>地域に還元</u>できる取組みとなるような活動にしたい。(木下容) 伊那谷は全国有数の芸能文化財の宝庫と言われている。霜月まつりや獅子舞など多様でありこれらをもっと利用すべき(木下克) 「人情の里」いいだを強調する(コミュニケーション)(湊) そもそも飯田ブランドを構築しなければならないのか疑問(後藤)

基本目標	番号	委員会	小戦略名	【評価の視点】 ①具体的な取組は良かったか (成果が評価できるか) ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか
基本目標 2 飯田市への人の流れをつくる	2-⑤	○ 産建・総務	魅力的な中心拠点の形成	【評価できること】 *第3期中心市街地活性化基本計画が、橋北・橋南両地区の基本構想と連携しながらの策定が進められる事になった点。(塚平) *まちなかイベントの積極的な展開。(井坪) ・丘のまちフェスティバル、丘のまちバルなどの各種イベントを開催し、多くの来街者により中心市街地の賑わいが広がってきていることは評価できる。(福澤克) ・「丘のまちフェスティバル」・「丘のまちバル」・「丘の上さんぽ」、民間による人力車など、中心市街地に賑わいを取り戻すための、具体的な事業が実を結び始めている。(木下容) *商店主が中心になった「まちなか回遊促進研究会」が発足するなど、工夫がみられる。(木下容) ・まちなか回遊促進研究会が発足され、「丘の上さんぽ」事業の展開が開始された点。(塚平) ・まちなか回遊促進研究会の発足→活性化には地元、地域の本気度が大事(木下克) ・リニア中央新幹線長野県駅を見据えた中心拠点の形成は評価できる(湊) 【改善・修正が必要な点】 ・『「丘の上さんぽ」事業に多数参加がありました。』→14万人余の動物園入場者との何%が参加したか具体的に(木下克) 【新たな視点で追加すべき取組】 ・「まちなかコンベンションビューロー・センター」の開設。(井坪) ・ <u>区画整理も視野に入れた駅周辺整備の取組を検討されたい。</u> (熊谷) *今後の方向性として、第3期中心市街地活性化基本計画の策定において、ピアゴ飯田駅前店の後利用も含めた駅周辺のあり方の検討と記述されているが、短期的な視点として <u>買い物弱者対策</u> や公共交通のあり方についての検討が必要。(福澤克) ・地域の皆様のためにも <u>ピアゴ飯田駅前店の後利用</u> は規模を縮小しても生鮮食品一般食品の店を継続を図られたい(湊) ・ピアゴ飯田駅前店の閉店はあまりに突然だったが、情報収集や存続に向けての働きかけ等の努力を評価する。駅周辺を含めた市街地活性化のあり方、文化会館への導線の検討、ピアゴの後利用の検討、買い物弱者対策など、早急に進められたい。(木下容) ・ピアゴ飯田駅前店の閉店、駅西側地区からの改札口設置要望を見ながら、「飯田駅周辺」をどの範囲とするのか、きめ細かな検討をされたい。(岡田) ・ピアゴの後利用の一つとして、現在高校生が多く使っているとのことなので、中・高校生の居場所作りに利用してはどうか(茅野市駅前にある、茅野市こども館「CHUKOらんどチノチノ」)(村松) ・ピアゴ閉店への対応は高齢化が顕著に進む市街地の生活環境を良好に保つ意味からも必須である。生活者重視の視点から市がイニシアティブを取り閉店後の活用に取り組む。(湯澤) ・丘の町フェスやバルなどのイベントは、一時的には賑わいを見せるが、根本的な解決とわかっていない。 <u>土地利用や用途地域の再検討</u> や衣料、食料品、革製品、事務用品、飲食店など専門店舗ごとの集積化を含めた根本的な取組が必要と考える。(熊谷) ・そもそも魅力的な中心拠点を作る必要があるのか疑問。中心市街地はそこに住む人の暮らしをまず考えるべき。(後藤) ・まちなかの見てみたい魅力づくり(戦略なくてもPRしなくても見てほしい場所の明記)(木下克) ・スポーツ合宿も旅の目的の一つとして捉え、合宿できる場所の情報提供に取り組むことも必要ではないか。(竹村)

基本目標	番号	委員会	小戦略名	【評価の視点】 ①具体的な取組は良かったか (成果が評価できるか) ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか
基本目標 11 災害に備え、社会基盤を強化し、防災意識を高める	11-①	○総務・産建	命と生活を守る市民防災力の向上	<p>【評価できること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップを更新し、4地区(下久堅・龍江・竜丘・川路)に配布し減災対策を図っている点(湊) ・天竜川での浸水に備え、4地区でのハザードマップの更新と各戸配布。(木下容) ・天竜川流域の水害時を見据え、流域地区(下久堅、龍江、竜丘、川路)においてハザードマップが更新され、各戸配布された。併せて地区の自主防災組織等で説明会、わが家の避難計画作成も開催される。(塚平) ・下久堅、龍江、竜丘、川路、4地区のハザードマップを作成したこと。(木下徳) ・独居高齢者に対して、家具転倒防止設備の設置状況の調査を個別訪問で行ったこと。(木下容) ・独居高齢者宅への家具転倒防止設備設置状況の個別訪問が約360戸行われ、今後も継続されて行うという点。(塚平) ・独居高齢者宅への個別訪問(小林) ・高齢者を対象にした「避難等のあり方研究会」は、地域の実情や体が思うように動かすことのできない高齢者への意識啓蒙につながることは評価できる。(竹村) ・独居高齢者宅に対して個別訪問を実施し、家具転倒防止設備の設置状況の調査を行ったこと。(熊谷) ・命と生活を守る防災体制づくりを行っている(後藤) ・実行性のある訓練方法の検討、情報伝達方法や情報を確実に伝達するための多様な媒体の整備(木下克) <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の防災力の向上をもう少し検討すべき(湊) ・高齢者宅等へ配布できる家具転倒防止策の重要性を示すペーパーを作成して啓発活動に使用されれば効果増が見込まれるのでは。(塚平) ・座光寺、上郷、松尾のハザードマップの改定。(木下徳) ・市民の防災意識を高めることがとても重要であり、更なる啓発活動や自主防災訓練の充実に取り組まれない。(湯澤) ・地の利がない場所で緊急情報を受ける場合に対応し、地図情報との関連付けを検討されたい。(岡田) ・自然災害と交通災害(交通事故)の扱いが混在していて分かりづらい。交通災害が埋没しないよう体系整理を。(岡田) <p>【新たな視点で追加すべき取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・迅速かつ確実な情報伝達を求める(湊) ・4地区のハザードマップの更新に加え、全地区のハザードマップの見直し更新。防災無線の更新に合わせて実施するのも良(木下克) ・独居高齢者への戸別訪問は、同時に見守り活動にもなる観点等からも、「防災と福祉のまちづくり」の概念をわかりやすく全市的に打ち出していかれるよう取り組まれない。(塚平) ・家具転倒防止設置への啓発活動設置の補助と、家具の移動等の市民ボランティアへの呼び掛け(小林) ・家具転倒防止設備の設置について、独居高齢者への支援や住宅の耐震診断の実施有無の調査も実施されたい。(熊谷) ・〈具体的な取組〉で「災害時の取るべき行動の実践力向上を図ります」となっているが、実践力を向上させるのは自主防災会なのか、市なのか。双方の役割の確認。(木下徳) ・避難所開設における実践的な取り組みについて、関係機関と連携を取っておくこと。(主体の明確化など)(井坪)

基本目標	番号	委員会	小戦略名	29年度 小戦略の評価	小戦略 資料No.1-2
基本目標 11 災害に備え、社会基盤を強化し、防災意識を高める	11-②	○ 総務・産業建設	みんなが安心して暮らせる防災・減災のまちづくり	<p>【評価の視点】</p> <p>①具体的な取組は良かったか (成果が評価できるか) ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか</p> <p>【評価できること】</p> <ul style="list-style-type: none"> 消防団員減少の中、加入促進のため本部を中心に各地で企業訪問等を行っている点。又自治振興センター職員もしっかり応援している点(湊) 消防団員確保に向けた諸活動の実施。(木下容) 消防団員確保 → 成人式のイベント等で消防団加入促進の広報活動(木下克) 天竜川の洪水から命を守る大避難訓練。(木下徳) 松尾地区大避難訓練における「避難済みの目印にタオルを掲げておく」は有効な取り組み。これら各地区の優良事例を広く周知・共有されたい。(岡田) 社会問題化している高齢者交通事故抑制のため、高齢者集会での交通安全講習実施や啓発活動。(塚平) よくやっている、当面このままで充実してほしい(原) <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害が起きてからでは遅い。平時よりリスクを認識し河川等の災害危険個所の整備を考えてほしい(湊) 消防団の活動への市民の関心向上。(木下徳) 自主防災組織の再点検。(井坪) 高齢者等災害弱者への情報伝達、避難時支援の確立。(村松) <p>【新たな視点で追加すべき取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 消防団員の加入促進方策に取り組まれたい(湊) 消防団員加入促進の方法として、今ある「信州消防団員応援ショップ」の制度に加え、消防団員や家族に対して、「〇〇%割引デー」の創設に向けての交渉を。(例えば、キラヤの水曜日5%割引のような)(木下容) 消防団員カードの利用できる消防団員応援ショップの登録店舗の充実と、一般市民への啓発活動(小林) 消防団確保は、両親等家族の理解を得るため説明のパンフや資料など市として作成したらどうか。また、スーパー等で安く買い物ができるなどの特典を与えるなど考えたらどうか(後藤) 消防団の定年延長による団員確保(木下克) 団員確保において、妻帯者の場合は奥様へのアプローチ(女性にとってのメリット(消防団員カード)を明確にする)も理解を得るうえで重要な取組みと考える。(竹村) 新入団員の確保が難しくなる中、退団者(満了・中途)の内訳を整理し、特に中途退団者の退団理由を分析したうえで、退団者をいかにへらすかという取り組みが大切である。(竹村) 消防団員確保では視点を変えて市民一人一人が消防団員のキャンペーを行い、消防団員の減員が進む上での防災力の底辺を広げる。(原) 消防団員の優遇措置として市民税の減税制度を検討されたい。(熊谷) 自主防災リーダー養成研修会の強化(専門的知識の取得)(湊) 高齢者等、災害弱者への支援活動や災害時の交通事故防止策の検討(湊) 自主防災会と市の係わり方、共助と公助の分担の確認。(木下徳) 災害時要援護施設と地域との連携構築(村松) 天竜川から命を守る大避難訓練を地域の理解を得て定期的実施すること(村松) 今後の方向性として、課題認識にあるように実効性のある訓練方法の検討を行い、自主防災組織へ指導されたい。(熊谷) 高齢者の交通事故削減のためには、運転免許証の自主返納という方法が考えられる。しかし、自家用車使用に代わる足の確保が必須条件。そのための対策の構築。(木下容) 高齢者の交通事故削減対策。効果のある安全対策を具体的に。又高齢者の運転免許証の自主返納者の増加に対する移動対策(木下克) 独居高齢者等の家具転倒防止設備について地域の協力を得ながら、設置を進めること(村松) 	

基本目標	番号	委員会	小戦略名	29年度 小戦略の評価	小戦略 資料No.1-2
基本目標 11 災害に備え、社会基盤を強化し、防災意識を高める	11-③	○総務・産業	緊急・災害時の情報伝達や収集機能の向上	<p>【評価の視点】</p> <p>①具体的な取組は良かったか (成果が評価できるか) ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか</p> <p>【評価できること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者・情報伝達や収集機能向上の取組み(湊) ・土砂災害防災訓練・地震総合防災訓練が地区ごとに行われた点。(木下容) ・豪雨などの事例の際や北朝鮮からのミサイル発射の折、情報伝達が確実に行われ、まちづくり委員会での避難所設置も順調に行われた。(木下容) ・長年の懸案であった防災行政無線の更新がようやく予算化された。(木下容) ・土砂災害特別警戒区域の住民へ情報伝達で、各訓練時の情報伝達において概ね50分以内に対象者への伝達が完了された。(塚平) ・避難情報の速やかな伝達の努力(後藤) ・防災行政無線の更新整備(木下克)の集会等へ交通少年団が広報活動で出向いたことは評価できる。(竹村) ・防災無線行政の更新整備。(村松) ・災害時の情報伝達については、様々な取組を行っているのと、防災無線の更新にも着手した。(熊谷) <p>・概ね評価できる。(木下徳)</p> <p>・よくやっている、当面このままで充実してほしい。(原)</p> <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険個所の修繕や整備に関しては優先的に早急に取り組まれない(湊) ・市民が自ら取りにいける情報の周知と避難勧告の根拠の説明。(木下徳) <ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織への依存度の再点検。(井坪) ・土砂災害特別警戒区域の住民への情報伝達について、訓練での実績でものをいうのではなく実際に発表されたときに確実に連絡が届いたかを検証することが大切である。(竹村) ・女性の自主防災リーダーを増やすこと。(村松) <p>【新たな視点で追加すべき取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災行政無線がはっきりと聞こえる対応を(湊) ・災害時の情報伝達に関し、SNSなどになじみが薄い高齢者への伝達方法を検討すべき。(木下容) ・今回の豪雨災害の状況を見ると、高齢者が避難せず、自宅で亡くなった例が多い。予測不可能な気象状況が起こる現在、自身の経験から考えて「大丈夫だ」と自己判断する高齢者に対し、「これまでの経験は当てにならない」という啓発活動に取り組む必要がある。(木下容) ・防災行政無線等による警報内容が市民に迅速的確に聞き取られているかの検証。(塚平) ・土砂災害特別警戒区域への避難情報等の伝達方法について、より早く確実な伝達方法の検討と、高齢者・独居高齢者への情報発信の方法の検討(難聴、身体機能の衰え等への対応、避難方法の検討)(小林) ・防災行政無線の立てる場所の検討 → なるべく地区全体に聞き取れる場所の選定(木下克) ・情報伝達の手段として、飯田ケーブルテレビの「安心ホットライン」は有効である。独居高齢者住居や災害危険地域への設置について、飯田ケーブルテレビと連携し設置費用の補助等検討されたい。(熊谷) <ul style="list-style-type: none"> ・社協との連携を実践的に研究すること。(井坪) ・自主防災会(地区)によっては高齢化率の高いところがあり、「高齢者の支え手が高齢者」となる実態も見られる。各自主防災会の力量に合わせ、共助の在り方、加えて公助とのバランスを柔軟に対応されたい。(岡田) <p>・平時の市民あるいは自主防災会との協議。(木下徳)</p>	
基本目標 11 災害に備え、社会基盤を強化し、防災意識を高める	11-④	○総務・産業	災害時にも都市機能が維持できる社会基盤の戦略的強靱化	<p>【評価できること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よくやっている、当面このままで充実してほしい。(原) ・「高度成長期に短期間で建設された土木関連施設が多い」という課題認識を明確にした点。事故を未然に防いでいく観点で齟齬が生じないよう必要な財源確保を講じられた。(岡田) ・河川自然災害工事5カ所、集中豪雨危険個所の解消として排水路整備事業15カ所の工事を完了したこと、また妙琴浄水場更新整備事業については、計画どおり事業が進捗していることは評価できる。(福澤克) <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域を水害から守るため、河川施設の長寿命化・耐震化、排水路の整備を優先順位をつけてスピード感をもって工事を行っていただきたい(湊) ・市民との協議の場を増やすべき。(木下徳) <p>【新たな視点で追加すべき取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災減災のための道路施設、河川施設、排水路、緊急避難所となる公園等の施設の長寿命化、耐震化、整備、修繕などの効率的な事業とるように各地区自主防災会等との連絡を密にする。(木下徳) ・長寿命化等の補修・改修の必要箇所の調査(木下克) ・近年のゲリラ豪雨にみられる短時間での強降雨・急出水は現在の排水路(特に農業用水路)では規模が小さい箇所が見受けられることから、地域からの要望の有無に関わらず適宜改修を行っていくことが必要である。(竹村) 	

基本目標	番号	委員会	小戦略名	【評価の視点】 ①具体的な取組は良かったか (成果が評価できるか) ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか
基本目標 12 リニア時代を支える都市基盤を整備する	12-①	○産建・総務	「信州・伊那谷の個性で世界を惹きつけ、世界へ発信する玄関口」としてのリニア駅周辺の整備	【評価できること】 ・よくやっている、当面このままで充実してほしい。(原) ・世界へ発信する玄関口、トランジットハブの強調(湊) *リニア駅周辺デザイン会議、学識者専門委員会が設置され、協議が続けられている点。(塚平) ・リニア駅周辺整備基本設計の検討組織である「リニア駅周辺整備デザイン会議」「学識者専門委員会」を発足し、協議運営を行っていることは評価できる。(福澤克) ・デザイン会議を設置したことは、機能とデザインを重視した飯田らしい空間設計が期待でき評価したい。(湯澤) ・駅周辺整備に関するワークショップを開催し、市民からの声を聞き取った。(木下容) ・高校生を含む多くの市民がかかわるワークショップを開催し、駅周辺整備について考える機会を設けたことは評価できる。(竹村) *乗換新駅を含む広域交通の拠点整備(木下克) ・乗換新駅までのアクセスを意識した検討(木下克) 【改善・修正が必要な点】 ・リニア駅周辺整備の取り組み状況を市民への周知し情報を共有すること。(村松) ・戦略に掲げられている「信州・伊那谷らしさを感じることができるようなリニア駅周辺の景観・環境・魅力づくり」を考えた時、交流広場や魅力発信施設、高架下空間の活用など、いつ頃までにどのような検討がされ、どのような形で市民合意がされるのか、手法やある程度の予定時期を示すことにより、良い意味での市民の機運が高まると感じる。(福澤克) ・甲府、中津川など他の中間駅の状況を把握し、飯田らしい特色のある駅周辺整備を。(熊谷) ・リニア駅周辺の低炭素街区エネルギー自立街区構想を、市のエネルギーパーク化的な見地からも検討されたい。(塚平) ・自動運転導入に向けての研究検討を始めること。(村松) ・交流広場、魅力発信施設には各地区の祭り(祭り会館の設置)がわかる対応を図られたい(湊) 【新たな視点で追加すべき取組】 *エネルギー自立の方向性については、地元との協議の行程を検討しておくこと。(井坪) ・「エネルギー自立の方向」について。供給源・供給先を検討する際は目新しさにとらわれるのではなく、保守・維持の観点も十分に考えられたい。(岡田) ・エネルギー自立の方向性の市としての明確化、市民への共通認識の確立(信州・伊那谷らしい景観・環境・魅力の行政、市民との共通認識)(小林) *駅舎を含め、駅周辺の「信州らしさ・伊那谷らしさ」の姿がまだ見えてこない。駅に降り立った時、「信州に来た・伊那谷に来た」と実感できるような景観・環境をしっかりと整えてほしい。(木下容) ・JR東海が設置する、駅本体と軌道への防音防災フードについて、景観に配慮した物とするよう検討し要望されたい。(熊谷) ・歴史・伝統芸能を前面に取り上げ魅力づくりを検討されたい(湊) ・庁内調整会議、リニア推進本部会議、検討組織、受注コンサルの効果的な協議運営に加え、地元の要望を取り入れられる地元有識者会議(木下克) ・評価できず(後藤)
基本目標 12 リニア時代を支える都市基盤を整備する	12-②	○産建・総務	駅勢圏(駅の利用が見込まれる地域)拡大に向けた道路ネットワークの強化	【評価できること】 ・リニアの高速性を活かした道路ネットワークの強化(木下克) ・中央自動車道と三遠南信自動車道の相乗効果を発揮できるよう道路のネットワーク化を進めている点(湊) ・国道153号飯田北改良や座光寺上郷道路において用地測量が完了した点。(木下容) ・国道153号線飯田北改良、座光寺SIC,および座光寺上郷道路はそれぞれに進捗がみられている点。(竹村) ・座光寺SIC及び駅周辺主要道路の整備とリニア中央新幹線へのアクセス機能を向上させる考え方。(木下克) 【改善・修正が必要な点】 ・地権者等には親切で丁寧な対応を図られたい(心によりそう)(湊) ・今以上に市民に寄り添った用地買収等の対応(小林) ・今後の方向性 → 丁寧な説明により計画の合意と用地買収は要望に添える様、誠意をもってあたります。(木下克) 【新たな視点で追加すべき取組】 ・リニア駅、乗り換え新駅、座光寺SICを結ぶために、小沢先生が講演会で公演されていた、自動運転についての検討が必要。(木下容) ・座光寺SIC供用開始予定時期と、リニア中央新幹線開業時期には、7~8年の時差がある。この間における座光寺SICの有効活用、特に市内への誘導策を研究されたい。(岡田) ・JR東海と県関係者には遠慮なく意見を述べて積極的に進められたい(湊) ・誰がどれくらい利用するか検証し、整備すべきか検討する(後藤)

基本目標	番号	委員会	小戦略名	【評価の視点】 ①具体的な取組は良かったか (成果が評価できるか) ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか
基本目標 12 リニア時代を支える都市基盤を整備する	12-③	○産建・総務	リニア時代を見据えた土地利用計画の策定	<p>【評価できること】</p> <ul style="list-style-type: none"> よくやっている、当面このままで充実してほしい。(原) 土地利用計画の策定に関して評価できる。特に遠山地域を新たに交流拠点に位置づけた点(湊) 飯田市土地利用基本方針の変更を受け、数々の見直しが実施された。(木下容) 開発行為の規制に関する見直しを行ったこと。(井坪) はるか昔に計画された都市計画道路について今後どのようにあるべきか見直し方針を出すことができたのは評価できる。(竹村) リニア駅(交通拠点)と中心市街地(中心拠点)を結ぶ道路ネットワークの強化の視点。基本目標の今後の方向性に記述されている、立地適正化計画策定の中で行うのであれば、小戦略12-③に明記が必要。(福澤克) <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 代替地エリアと重なるため、よりスピード感を持った事業とすべき。(湯澤) 居住者にとって「住みやすく」するために都市計画の見直しは心に寄り添った丁寧な対応を(湊) 遠山地区を新たに交通の拠点に位置付けた根拠が判らない。(木下克) リニア駅(交通拠点)と中心市街地(中心拠点)を結ぶ道路ネットワークの強化の視点。基本目標の今後の方向性に記述されている、立地適正化計画策定の中で行うのであれば、小戦略12-③に明記が必要。(福澤克) <p>【新たな視点で追加すべき取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> リニア時代を見据えた時、駅周辺への集中的な投資が都市基盤整備に寄与することから、今後も、開発規制等においては、可能な限り、開発を誘導できる方向を模索すること。(井坪) 代替地エリアを含む500m圏は、本来なら区画整理で新たな街ができていてもおかしくないエリアであり、飯田市のモデル的住宅ゾーンとして緑地帯や道路網整備を検討すべきである。(湯澤) 特に評価することなし(後藤)
基本目標 12 リニア時代を支える都市基盤を整備する	12-④	○産建・総務	リニア事業に関連する社会基盤の整備	<p>【評価できること】</p> <ul style="list-style-type: none"> よくやっている、当面このままで充実してほしい。(原) 道路・水路機能回復確保の整備及び代替地整備の対応については課題は多いかと思われるが概ね評価できる(湊) 座光寺地区で硬直していた幅杭設置の問題が、市の提案により住民理解を得られた事。(木下容) <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 移転者の方々の移転先決定等への、更なる迅速かつ丁寧な対応(小林) 用地担当者がいかに移転を余儀なくされる方の心をつかむことができるかが、今後の移転交渉が順調に進められるかのポイントになることから、この点を十分に意識した対応をお願いしたい。(竹村) 「代替地整備をはじめとする移転対象者への対応に取り組めます」→ 誠意を表現すべき(木下克) JR東海の環境対策に対しては、座光寺地区において防音防災フード廃止を要望しているので徹底協議を行ってください(湊) コンベンション施設建設が既に決まったような記述は見直すべき(後藤) <p>【新たな視点で追加すべき取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に代替地を希望している住民には心から寄り添ってマッチングを図りたい(湊) 移転先における円滑な地域コミュニティが確保されるための方策を併せて整備されたい。(塚平) 代替地整備にあたっては、提供する側、提供を受ける側、双方の事情をつぶさに把握し、丁寧な対応に心がけること。(井坪) リニア関連事業で影響を受ける市民との信頼関係づくりに部署をあげ取り組むこと。(湯澤) 「代替地整備をはじめとする移転対象者への対応に取り組めます」→ 誠意を表現すべき(木下克) 移転者の方々の移転先決定等への、更なる迅速かつ丁寧な対応(小林)

基本目標	番号	委員会	小戦略名	29年度 小戦略の評価	小戦略 資料No.1-2
基本目標 12 リニア時代を支える都市基盤を整備する	12-⑤	○ 産建・総務	リニアの二次交通の構築及び持続可能な地域公共交通の実現	<p>【評価の視点】</p> <p>①具体的な取組は良かったか (成果が評価できるか) ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか</p> <p>【評価できること】</p> <ul style="list-style-type: none"> よくやっている、当面このままで充実してほしい。(原) 持続可能な公共交通システム構築・運用する点(湊) 今後の方向にバスロケーションシステム等も視野に入れている事。(塚平) 利用者視点や将来的なまちづくり方針等を勘案しつつ持続可能な地域公共交通システムの構築・運用の考え方。特に自動車に依存しなくても生活できる環境整備(木下克) 運転免許証の自主返納者増加、自動車運送業の担い手不足を課題認識に置いた上で、持続可能な地域公共交通を考えていく姿勢は当を得ている。(岡田) 今後の方向性で持続可能な地域公共交通システムを交通部局と福祉部局が連携を強めて取り組むこと。(村松) 市民の足の一つとなる乗合タクシーについて、座光寺上郷線は本格運行に移行できなかったが、単純に取り止めではなく上市田線へ統合し市民の足を確保したことは評価できる。(竹村) 二次交通の整備にあたって、乗換新駅設置について、伊那谷自治体会議での合意を見たこと。(井坪) 二次交通の整備について好氣的な観点も踏まえた考え方。1リニア駅とつなぐ、2飯田線活性化、3乗換新駅設置(木下克) <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自動運転技術の導入を中心に二次交通の整備(湊) レンタカー「電気自動車(エコ)」の設置を強調。低価格での利用(湊) 鉄道ファンから見た飯田線の価値をオタク文化的な位置づけで発信できる土壌も有用。(塚平) 今後市として飯田駅活性化にどう取り組んでいくか。(村松) <p>【新たな視点で追加すべき取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> *リニア駅から二次交通ををどう整備するか需要を考えて取り組む。利用者が一人/日でも整備するのか考えてほしい(後藤) ・取り巻く状況の変化に「来訪者と居住者の視点を踏まえた交通ネットワークの形成が重要(略)」とあるが、飯田市20地区の市民がリニア駅を利用する場合、どのような交通手段を使い利用すればよいかの視点も大切。イメージすることにより気運が高まる。(福澤克) *これからの10年20年間では、AI・IOTを用いた産業の革命や、自動運転による交通システムへと変化していくことが考えられる。世界で初めてのリニア新幹線とあわせ、AIやIOTによる新交通システムの構築を先乗りし、世界に先端性を示していくべき、その研究に着手されたい。(熊谷) ・自動運転技術の導入についての関連情報を収集し、新たな二次交通の要として位置付けた研究を推進すること。(井坪) ・AIやICT技術の進歩による、自動運転(レベル4・5)を利用したインフラ整備の調査・研究(小林) ・リニア駅、乗り換え新駅、座光寺SICを結ぶために、小沢先生が講演会で公演されていた、自動運転についての検討が必要。(木下容) ・自動運転、EV・FCV、カーシェアリングなどへの対応を今から検討すべきである。(湯澤) *運転免許証自主返納者に対する支援の取り組み。(木下容) ・自動運転に絡めた自動車免許証の返納へのアプローチと、買い物弱者等への対応策の構築(小林) ・自動車運送業の担い手不足対策も含め、乗り換え新駅設置を基点とした地域公共交通のグランドデザインを研究されたい。その上で、乗り換え新駅の必要性について市民と議論を深められたい。(岡田) ・自動車運送業の担い手不足解消のための取り組み。過疎地域を回る路線バスに荷物を積み込んで運ぶ「客貨混載」方式の可能性の検討。(木下容) ・「歩いて楽しめるまち」「楽しみながら歩けるまち・エリア」を意識した環境整備に取り組まれたい。(塚平) ・観光課を主な関係課に追加し連携 → 飯田線の活性化でJR飯田線の速達性、利便性の向上と観光資源として活用(木下克) ・リニア駅とつなぐため、観光資源を最大限に活かす取組みを図られたい(湊) 	
基本目標 12 リニア時代を支える都市基盤を整備する	12-⑥	○ 産建・総務	リニア時代を見据えたICTの活用とその基盤の整備	<p>【評価できること】</p> <ul style="list-style-type: none"> よくやっている、当面このままで充実してほしい。(原) 順調に進んでいる。(湯澤) *ICTを活用した新技術導入、又良好な情報環境基盤の整備を進めている点(湊) ・市内拠点10施設に公衆無線LANを整備した点。(木下容) ・市内6か所への公衆無線LAN整備の実施(塚平) ・リニア時代が何かわからないが「公衆無線LAN」の整備(後藤) ・市内拠点10か所に公衆無線LANの整備(小林) ・海外からの飯田への来訪者に対しWi-Fi環境を整備することは重要なテーマであり、拠点10施設に整備したことは評価できる。(竹村) ・市内10カ所への公衆無線LANの整備。(熊谷) ・民間の技術開発を地域振興や地域課題解決に活用する考え方(木下克) <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公衆無線LANを整備したことを、周知すること。(木下容) ・公衆無線LANの整備について、地域の拠点である各自治振興センター及び公民館への設置について検討されたい。(熊谷) ・当面環境整備は様子見ということであるが、遠山には見どころがたくさんあり、これから紅葉シーズン・霜月まつりに向かうことから環境整備を進めていくほうが良いのではないか。(竹村) ・徹底的に民間技術開発を活用できるよう取り組まれたい(湊) <p>【新たな視点で追加すべき取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネット社会、ネットワーク社会を見据え、飯田市の観光、魅力、情報発信強化のための、公衆無線LANの増設の検討(小林) ・市民の生活の質の向上のために公衆無線LANの整備を考えてほしい(後藤) 	